

徹 ・ 底 ・ 分 ・ 析 ・ !

年度別

歯科衛生士 国家試験問題集

歯科衛生士国試問題研究会／編

平成29年版
新出題基準
対応

2018年版

[第22回～第26回]

医歯薬出版株式会社

◆ 問題数にポイントをおく！

各科目の出題数は公表されていませんが、これまでの国家試験を分析した結果、また、平成 29 年の新たな出題基準の内容から、おおむね表 1 のとおりと予想されます。

表 1 科目別出題数

科目名	出題数
一 人体の構造と機能	7～9
二 歯・口腔の構造と機能	7～9
三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進	16～18
四 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	30～32
五 歯科衛生士概論	5～7
六 臨床歯科医学	53～55
七 歯科予防処置論	28～30
八 歯科保健指導論	34～36
九 歯科診療補助論	28～30

出題数が多い科目は得点源になります。逆にいえば不得意となると得点が大幅に減るので、重点的に学習しておくとういでしょう。また、出題数がほかより少ない科目についても、まんべんなく学習する必要がありますが、より学習の能率をよくするためには出題傾向をつかんでおくとう効果的です。

◆ 平成 29 年版歯科衛生士国家試験出題基準からみた学習のポイント

今回の出題基準の改定をながめると、大きく変更された分野とほとんど変更がなかった分野にわかれます。このため、この状況を理解して国家試験の学習に臨む必要があります。ここでは、まずどのように改訂されたか、以下にポイントを示します。

国家試験の試験科目は、9つの科目（以下に示す一～九）にわかれ、出題基準ではそれぞれの科目がⅠ、Ⅱ、Ⅲ…で示す範囲に区分けされ、さらにそれぞれの範囲で1、2、3…で示す大項目、そして大項目はさらにA、B、C…で示す小項目にわけられています。このことは、表 2 (p.17) のようになります。なお、今回表 2 における第 22 回～26 回の問題は新たな出題基準にもとづくものに直しました。

ここで、過去 5 年間の出題状況をみますと、範囲、大項目、小項目によってよく出題される分野とそうでない分野とがある程度わかります。したがって、それぞれの科目を順序よく学習するか、よく出題される分野を中心に学習するか、受験者それぞれの学習時間（期間）や学習の進め方によって決めることもできます。

しかし、過去 5 年間ではあまり出題されていなくても、今回の出題基準の改定で重点となった項目もあります。この分野は出題される可能性が高くなります。この点についてはしっかり頭に入れて学習してください。

以下、改定による学習のポイントをあげます。

節	大項目	小項目	第22回 (2013年)	第23回 (2014年)	第24回 (2015年)	第25回 (2016年)	第26回 (2017年)
Ⅶ 健康教育	1. 健康教育の対象	E 地域・病院・施設			92		
	2. 健康教育の要点	A 集団・組織・地域に応じた内容					
		B 健康教育の方法					92
		C 評価					

九 歯科診療補助論

節	大項目	小項目	第22回 (2013年)	第23回 (2014年)	第24回 (2015年)	第25回 (2016年)	第26回 (2017年)
Ⅰ 総論	1. 概要	A 歯科診療補助の範囲と業務		93	93		
		B チーム歯科医療の考え方					
		C 訪問診療					
	2. 情報収集	A 全身状態の把握					93
		B 口腔内状態の把握					
	3. 患者への対応	A 一般的対応					
		B 配慮を有する者への対応	102 106	51 107	94	110	100 107
	4. 診療時の共同動作	A 共同動作の基本					
		B 術者・補助者・患者の位置と姿勢			95	101	
		C フォーハンド	109 94				
		D バキュームテクニック					
	5. 診療設備の管理	A 歯科用ユニット	95			94	
		B エックス線撮影装置					
		C レーザー装置					39
		D 酸素吸入器			94		
		E 口腔外バキューム装置					
		F 薬品、歯科材料の管理					
	6. 医療安全管理	A 医療事故の防止	67 93 109	79 106	33	58	96 33 66 94
		B 感染対策		95 94		97	
	7. 消毒・滅菌	A 消毒・滅菌の定義			95		
B 消毒・滅菌の種類と効能					36		
C 薬液消毒					97	37 97	
D 滅菌法		94	36 94			36	
E 消毒・滅菌済み器材の管理							
1. 模型用材料	A 歯科用石膏の種類と用途		97		95		

表 3 難易度一覽表-第 26 回 (2017 年)-

午前				午後											
番号	☆	☆☆	☆☆☆	番号	☆	☆☆	☆☆☆	番号	☆	☆☆	☆☆☆	番号	☆	☆☆	☆☆☆
1		☆☆		56		☆☆		1		☆☆		56	☆		
2		☆☆		57		☆☆		2	☆			57		☆☆	
3		☆☆		58		☆☆		3		☆☆		58	☆		
4		☆☆		59		☆☆		4	☆			59		☆☆	
5	☆			60		☆☆		5		☆☆		60		☆☆	
6	☆			61		☆☆		6		☆☆		61		☆☆	
7		☆☆		62	☆			7			☆☆☆☆	62		☆☆	
8	☆			63	☆			8		☆☆		63		☆☆	
9		☆☆		64		☆☆		9	☆			64			☆☆☆☆
10	☆			65	☆			10	☆			65		☆☆	
11	☆			66	☆			11	☆			66	☆		
12		☆☆		67		☆☆		12	☆			67		☆☆	
13			☆☆☆☆	68	☆			13		☆☆		68			☆☆☆☆
14	☆			69	☆			14	☆			69	☆		
15		☆☆		70		☆☆		15			☆☆☆☆	70		☆☆	
16		☆☆		71	☆			16		☆☆		71		☆☆	
17		☆☆		72	☆			17		☆☆		72		☆☆	
18		☆☆		73		☆☆		18	☆			73		☆☆	
19		☆☆		74		☆☆		19		☆☆		74			☆☆☆☆
20		☆☆		75	☆			20	☆			75		☆☆	
21		☆☆		76		☆☆		21		☆☆		76	☆		
22		☆☆		77		☆☆		22	☆			77		☆☆	
23	☆			78		☆☆		23		☆☆		78		☆☆	
24		☆☆		79		☆☆		24		☆☆		79		☆☆	
25		☆☆		80	☆			25		☆☆		80		☆☆	
26		☆☆		81		☆☆		26		☆☆		81	☆		
27		☆☆		82	☆			27		☆☆		82		☆☆	
28		☆☆		83	☆			28	☆			83		☆☆	
29	☆			84	☆			29		☆☆		84	☆		
30		☆☆		85	☆			30		☆☆		85		☆☆	
31	☆			86	☆			31		☆☆		86		☆☆	
32			☆☆☆☆	87	☆			32		☆☆		87	☆		
33		☆☆		88	☆			33		☆☆		88	☆		
34	☆			89		☆☆		34	☆			89			☆☆☆☆
35	☆			90		☆☆		35	☆			90		☆☆	
36	☆			91	☆			36		☆☆		91			☆☆☆☆
37		☆☆		92	☆			37		☆☆		92			☆☆☆☆
38		☆☆		93		☆☆		38		☆☆		93		☆☆	
39	☆			94		☆☆		39	☆			94		☆☆	
40	☆			95			☆☆☆☆	40			☆☆☆☆	95		☆☆	
41		☆☆		96	☆			41			☆☆☆☆	96		☆☆	
42		☆☆		97	☆			42		☆☆		97		☆☆	
43		☆☆		98	☆			43		☆☆		98		☆☆	
44		☆☆		99	☆			44			☆☆☆☆	99		☆☆	
45		☆☆		100		☆☆		45		☆☆		100			☆☆☆☆
46		☆☆		101		☆☆		46			☆☆☆☆	101		☆☆	
47	☆			102	☆			47		☆☆		102		☆☆	
48		☆☆		103		☆☆		48		☆☆		103		☆☆	
49			☆☆☆☆	104		☆☆		49		☆☆		104	☆		
50		☆☆		105		☆☆		50	☆			105			☆☆☆☆
51		☆☆		106	☆			51		☆☆		106		☆☆	
52			☆☆☆☆	107		☆☆		52		☆☆		107	☆		
53		☆☆		108		☆☆		53		☆☆		108			☆☆☆☆
54		☆☆		109		☆☆		54		☆☆		109		☆☆	
55		☆☆		110		☆☆		55	☆			110		☆☆	

別 冊
午前 No. 5 写真

〔問題 42〕 38 歳の女性。上顎左側臼歯部の歯肉からの排膿を主訴として来院した。2 週前から同部の腫脹と疼痛を認めていたが放置していたという。頬側歯肉部に瘻孔がみられ、上顎左側第二小臼歯と第一大臼歯に打診痛を認めた。エックス線写真撮影直前の口腔内写真（別冊午前 No. 6）を別に示す。

この検査の目的はどれか。

- a 根管長の測定
- b 原因歯の特定
- c 歯根破折の診断
- d 歯髄の生死の判定

別 冊
午前 No. 6 写真

〔問題 43〕 19 歳の女性。ブラッシング時の疼痛を主訴として来院した。2 年前から気付いていたが放置していたという。既往歴にてんかんがあり、投薬を受けている。初診時の口腔内写真（別冊午前 No. 7）を別に示す。

考えられる対応で、まず行うのはどれか。

- a 歯肉の切除
- b 服用薬の中止
- c 抗菌薬の投与
- d ブラークコントロール

別 冊
午前 No. 7 写真

〔問題 44〕 36 歳の女性。上下顎前歯部歯肉からの出血を主訴として来院した。検査の結果、侵襲性歯周炎と診断され、歯周治療を行うことになった。初診時の口腔内写真（別冊午前 No. 8）を別に示す。

歯周基本治療開始前に説明すべきリスクはどれか。2 つ選べ。

- a 歯根破折
- b 構音障害
- c エナメル質う蝕
- d 象牙質知覚過敏症

別 冊
午前 No. 8 写真

〔問題 45〕 部分床義歯の写真（別冊午前 No. 9）を別に示す。

複合義歯はどれか。2 つ選べ。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④

別 冊
午前 No. 9 写真

〔問題 46〕 有床義歯製作において、前歯部人工歯選択の SPA 要素に含まれないのはどれか。

- a 性 格
- b 性 別
- c 職 業
- d 年 齢

〔問題 47〕 固定性ブリッジの構成要素はどれか。2 つ選べ。

- a 支台歯
- b 築造体
- c 連結部
- d 支台装置

〔問題 48〕 半固定性ブリッジに用いるのはどれか。

- a 磁性アタッチメント
- b キーアンドキーウェイ
- c コーヌステレスコープ

侵入する恐れがある場合に、暫間的に歯間を修復することによって欠損部を防ぐことである。歯肉の圧排は、窩洞の範囲が歯肉縁に及ぶ場合の修復や印象採得時に辺縁歯肉を排除するために歯肉溝を広げる操作のことで、歯肉排除という。欠損部に対して、治療後に歯質の保護や咬合を確保するために暫間被覆冠を装着する。

問題42 a, c ☆☆

解説 直接覆髄法は、露出健康歯髄に対して水酸化カルシウムやMTAセメントを使用して露髄部を被覆する。生活歯髄切断法は、歯髄炎に罹患した歯冠部歯髄を除去し、根部歯髄は生活させたまま残留させる方法である。水酸化カルシウムが第一選択とされる。

歯髄鎮静消炎療法は、フェノール製剤と植物性揮発油類がある。前者は、フェノールカンフル、クレオドン[®]、メトコール[®]があり、後者は酸化亜鉛ユージノールセメントもしくはユージノール単体で使用される。暫間的間接覆髄法に歯髄に近接した深い蝕のために軟化象牙質を徹底的に除去すると露髄する可能性がある場合に、再石灰化が可能な軟化象牙質を残存させ、水酸化カルシウム製剤またはHY剤配合カルボキシレートの貼付により歯髄を保護する方法である。パラホルムアルデヒドはタンパク凝固作用により歯髄を失活させる。

類 24回午前問題99

問題43 a ☆☆

解説 歯肉炎は歯槽骨吸収がみられないため、解答肢のなかでは侵襲性歯周炎のみ歯槽骨吸収がみられる。遺伝性歯肉線維腫症は、歯列全体に高度に線維化した歯肉の増殖が起こる疾患である。

類 22回午後問題40

問題44 a ☆☆☆

解説 歯周基本治療、歯周外科治療後の再評価検査の歯周組織検査結果をもとに治療方針を問う問題である。上顎左側第一小臼歯、下顎右側第二大臼歯に4mmの歯周ポケットがみられるが、プロービング時の出血はみられないことから、歯周病は安定期である。今後の治療方針はSPT(Supportive Periodontal Therapy)を行う。

類 23回午後問題76、午後問題73

問題45 a ☆☆

解説 グループファンクションとは、下顎の前方運

動時には前歯が接触して臼歯部を離開させ、側方運動時には作業側の複数の歯が接触し、平衡側では咬合接触のない咬合様式である。作業側とは側方運動時における下顎の外側方への移動側をいい、平衡側はその反対側をいう。側方運動時に接触するのは作業側の犬歯、小臼歯、大臼歯であり、中切歯は接触しない。小臼歯で接触するのは上顎側咬頭の内斜面と下顎側咬頭の内斜面、上顎舌側咬頭の外斜面と下顎舌側咬頭の内斜面である。

問題46 c ☆☆☆

解説 フェイスボウトランスファーとは、頭蓋あるいは顎関節に対する上顎歯列の三次元的位置関係をフェイスボウを用いて記録し咬合器上に再現する操作をいう。これにより上顎模型を咬合器に付着し、補綴装置を製作する。フェイスボウは、上顎歯列の位置を記録するバイトフォーク、前方基準点を示すリファレンスポインター、左右の後方基準点を示すロッドからなる。下顎が最も前方にある位置を最前方位という。下顎の滑走運動時の切歯点(下顎両側中切歯の近心隅角部)が描く運動路を切歯路といい、この切歯路が基準面との間につくる角度を切歯路角という。下顎安静位とは上体を起こして安静にしているときの姿勢位で、このとき、上下顎の中切歯部で約2~3mmの垂直的空隙がある。

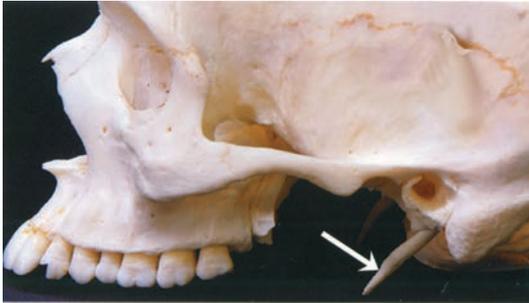
類 22回午後問題45 25回午前問題45

問題47 c ☆☆

解説 下顎部分床義歯の連結装置である大連結子に関する問題である。歯軸方向の幅とは、大連結子の上縁と下縁の間の長さ(幅)を意味する。リングルバーの幅は3~5mmあり、上縁を歯頸部から3~4mm離して設定する。屈曲と鋳造があり鋳造のほうが幅が広い。リングルプレートはリングルバーより幅が広く下顎舌側歯槽面を広く覆う。このリングルプレートを下顎前歯の舌面まで延長したものがリングルエプロンであるため、リングルエプロンが最も幅が広いということになる。

問題48 c ☆☆☆

解説 写真から片側性に帯状の発疹と水疱を認める。患者は4歳時に水痘に罹患した既往があるとのことから水痘・帯状疱疹ウイルスの回帰感染と考える。このウイルスは症状消失後も体内、特に脳神経や脊髄神経に潜伏し、ウイルスが再度活性化すると、それらの神



午後 No. 1 (問題 3)



午後 No. 3 (問題 34)



①



②



午後 No. 4 (問題 36)



③



④

午後 No. 2 (問題 15)



午後 No. 5 (問題 41)



午後 No. 6 (問題 42)